

補聴器と私

大和田囀碁同好会 原田朋栄

今の高齢化社会の真っ只中を鑑みております。団塊の世代に生きてきた私は、R社で、25歳から定年まで42年間、医療機器の製造、検査、修理、営業と従事してきました。中でも営業業務が長く、他県、都内の営業所の開設や、都内の大学病院、開業医への補聴器外来の開設、営業所では、医療機器販売業、修理業の責任者として、又、聴覚医学会の準会員として、言葉に尽くせぬ多忙な時代がありました。それも今は懐かしい思い出となっています。そうした私の経験から、少しでも補聴器の購入や装用に失敗しない助言ができればと思い、本稿を認めてみました。

補聴器は、医療機器ですので、補聴器を購入、装用する場合は、認定補聴器技能者のいる販売、装用指導が公正適正に出来る教育された店認定補聴器専門店を選ぶことです。こうした専門店では、現在、全国約4,400名ほど公益法人テクノエイド協会に登録されています。



補聴器を適正に購入、装用する場合についていくつかの配慮したい点を述べます。

第一に、耳鼻咽喉科で、ドクターに補聴器装用の良否判断依頼と聴力検査の相談をお薦めします。

第二に、もし、補聴器の購入、装用の指導があった場合は認定補聴器技能者の居る専門店を紹介して戴き、経験豊かな従事者に担当してもらいましょう。

第三に、装用経験をすること、自分に合った使い易い機種を選び、実際に生活環境で慣れてみて、装用の良否を考えたいものです。必要性が余り無い場合は、購入してもタンスの肥やしとなる方々も見受けられるので、装用するかあを考える時間が必要です。

第四に、出来るだけ納得のいく試聴を繰り返して、貸出してもらい、不満の無い購入に心掛けましょう。介護施設での出張販売での購入の場合、購入後1週間以内なら返却出来るクーリングオフ制度にも熟知しておきましょう。

第五に、購入された場合は、定期的な聴力測定と掃除と補聴器の装用効果の再調整といった点検を、必ず習慣的に1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月、1年毎に励行していくことです。もし、聴力変動や病理的が気になる場合は、掛り付けの耳

鼻科医に診てもらいましょう。

第六に、ご高齢になり著しく聴力が悪くなり自費購入が難しい場合は、公的手段として、判定によっては、身体障がい者の支援を受けられる場合もありますので詳しくは市の窓口にご相談するのもよいと思います。

以上、概略だけ述べましたが、私は現役の頃は、「人間の聴覚に勝る補聴器はありません」と常々言っていました。多くの方には、共感して戴けましたが、反面、苦慮する方も少なからずおりました、中国では、補聴器を助聴器と言います、人の聴こえを助けると言えるでしょう、また、人を助けるとも解釈出来るのではないかと！

補聴器技能者として、経験から学んだ[抜苦与楽]とは、生きていく中で、希望と心の豊かさを取り戻すことではなかったかと想う次第です。

(令和4年1月)

